

雪合戦ルール・審判 比較資料 日連・国連の主な相違点

日本雪合戦連盟 国際雪合戦連合

■競技者登録

●一大会、専任監督

●試合毎に監督を指名 新山ルールとして

■競技記録用紙書式

※競技者名簿部分を設け、選手名欄、交代も記載
両監督の確認サイン、記録員のサイン

※2020ガイドラインに掲載されているのは古い書式です

試合	LRG013	L01組	第 1 コート	第 9 試合
チーム名	L11	めしべ	○ ×	デンジャラスガール
第1セット	ポイント	5	△	5
第2セット	ポイント	7	○	1
第3セット	ポイント	7	○	5
取得セットポイント	合計ポイント	19	引き分け	0
VT戦	1 2 3 4 5 6 7		1 2 3 4 5 6 7	
監督署名	小原 一志		佐々木 肇	
審名	主審 黒岩憲一		記録員 今井南美	
反則判別	1 2 3 4 5 6 7	警告は、競技者名簿にも記入する	1 2 3 4 5 6 7	
備考				

【4x0カード】【注意】

記録用紙

※セッテンカラーに○して下さい。
※アウト選手にセッテン番号√をして下さい。

試合	第	コート	第	試合	第	ブロック
チーム	No.	チーム名(セッテンカラー 赤 青)	No.	チーム名(セッテンカラー 赤 青)		

●勝ちチームのポイントを○囲む。10-0 の時は右の該当結果の欄を チェック✓ してください。

1 セット	OUT▶	1 2 3 4 5 6 7	OUT▶	1 2 3 4 5 6 7
2 セット	OUT▶	1 2 3 4 5 6 7	OUT▶	1 2 3 4 5 6 7
3 セット	OUT▶	1 2 3 4 5 6 7	OUT▶	1 2 3 4 5 6 7
取得セット	()			
合計ポイント				
反則	イエロー/レッド ()セット	イエロー/レッド ()セット		
反則補足	イエロー/レッド ()セット			
勝利チーム名			勝利監督名	
主審			審判長	

〈VT戦内訳〉※標的を落とした場合は○、落とせなかった場合は×を記入して下さい。

チーム名	代表競技者(5名)	サドンデス	合計ポイント
チーム名			
NO.			
NO.			

試合前に第①セットの欄に、競技者のピス番号を記入する。②は交代があった場合、その番号を記入する。

■フライング

- フライングはアウトでは無い
- 当該チームが2回目でイエロー

従来通り

- フライングの判定は
主審が両手を広げてから ホイッスルまで～。

※審判細則で選手を注視と記載

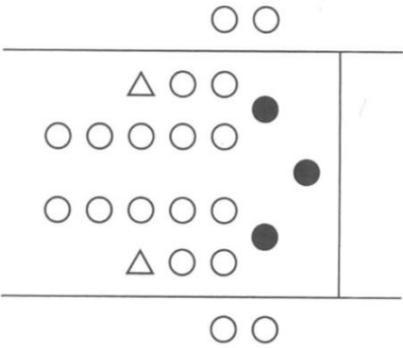
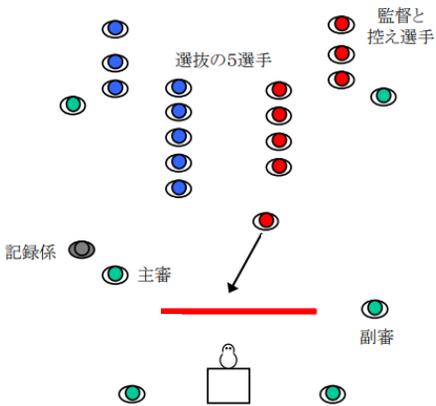
- ラインを踏んでいれば、動いても良いと記載

- フライング当該選手はアウト

- ヨーイ、方式を採用

- フライング判定の開始は
主審が、宣告(ヨーイ)してからホイッスルが
鳴るまでに 足が離れたり、雪球を投じた場合

日本雪合戦連盟	国際雪合戦連合
<p>■無効雪球の定義</p> <p>① 2/3以下の大きさのもの ② アウト競技者が持っている雪球 ③ コートの外にある雪球、 コートの外からは入ってきた雪球</p> <p>●アウトになった選手は雪球をその場に置き すみやかにコート外へ出る。</p> <p>※アウト選手が置いた雪球は、無効球ではないという 認識</p>	<p>① 2/3以下の大きさのもの ② コートの外にある雪球 ③ コートの外からは入ってきた雪球</p> <p>●アウト競技者投げた球に当たってもアウトではない。 と記載。</p> <p>●新山ルールにはアウト競技者が意図的に補給を する行為をするとチームに警告イエロー。</p>
<p>■反則行為</p> <p>●フラッグ奪取時に守備側の選手が進路をふさぐ などして妨害した場合、競技妨害を適用</p>	<p>●フラッグ奪取時に守備側の選手が進路をふさぐ などして妨害した場合の記載はない。 選手に対してでは危険行為を適用とも考えられる。</p>
<p>■中断</p> <p>●中断の権限</p> <p>●ルール表記では、中断を判断するのは主審の合 図によるとあります。副審は主審に中断を通告して、 同時に主審が競技を中断する、とありますが、 審判動作の表記では、「副審は中断を主審に通告 し」と記載されてはいますが、動作は、両腕を上で交 差し断続的に笛を吹くと、具体的な中断動作の記載 になっています。</p> <p>●「ストップウォッチは主審中断の合図で止まる」と あります。</p> <p>●選手は雪球をその場に置く</p>	<p>●中断は主審に限らず副審も可。選手、監督もケガ などがあったとき中断を要請できる。</p> <p>日連は主審への通告とありますが、結局どちらも、副 審も中断の権限があるという事です。ただ主審が見 ている側でなければ、タイムラグが生じることになり、 センター以外の副審が試合中断を決断する場面は 経験も必要かと思われます。</p> <p>●選手は雪球を持ったまま</p>

日本雪合戦連盟	国際雪合戦連合
<p>■VT戦について</p> <p>●VT戦のラインオーバーの規定 ラインまたは、ポールに触れた場合、無効</p> <p>●VT戦の選手配置</p>  <p>※リザーブの選手をコート外に示している。</p>	<p>●VT戦のラインオーバーは、他のラインオーバーの規定と同様。片方の足が完全に踏み越える、体の一部が出た場合。 ラインまたはポールに触れても成立</p> 
<p>■審判動作</p> <p>●右記に関しては無し</p> <p>●審判規則に、細則として動作の記載がある。</p> <p>●1シェル審判は後ろ向き 1シェルと2シェルの内側面を見る。後方のボックス選手全般を見る</p> <p>■4人目侵入の判定についての記載で 具体的に人数を確認してから行うとある。</p>	<p>■審判動作</p> <p>●セーフコールの奨励 部位をジェスチャーで示す</p> <p>●アウトコールを優先 オーバーコールできない</p> <p>●1シェル審判前向き 1シェルとセンターに選手がいる場合は後方からセンター後方を見る。</p>